

北新川駅周辺まちづくり基本構想

～ やろまい、北新（きたしん）！ 選ばれるまちを目指して ～



碧南市
令和8年6月

【目 次】

1. 基本構想の目的.....	1
(1) 策定の背景・目的.....	1
(2) 基本構想の位置づけ.....	2
(3) 上位計画・関連計画.....	3
2. 地区の現状と課題.....	5
(1) 本地区の現状.....	5
(2) 本地区の特徴.....	13
(3) 本地区の課題図.....	14
3. 基本方針.....	15
(1) 基本方針.....	15
(2) 土地利用方針（ゾーニング）.....	17
4. 実施方針・整備目標.....	18
(1) 実施方針・整備目標.....	18
(2) 基本構想図（目指す区域の姿）.....	19
(3) 取組施策.....	20
5. 今後の予定.....	25
6. 基本構想の実現に向けて.....	25
資料編.....	26
(1) 基本構想検討会.....	26
(2) 市民アンケート.....	28

1. 基本構想の目的



(1) 策定の背景・目的

1) 背景・目的

名鉄三河線北新川駅周辺は、「碧南市都市計画マスタープラン 2019-2030」（以下、「都市計画マスタープラン」という。）において、地域特性や公共交通を活かした多様な交流を促進するため、商業機能及び居住機能を推進するサブ拠点（サブ核）として位置づけられています。また、昨今の社会情勢と同様に、碧南市においても将来の人口減少や少子高齢化に対応するため、駅周辺の市街地に都市機能や居住を集約する、持続可能なまちづくりが重要です。

都市計画マスタープランにおける新川地域の地域別構想では、北新川駅周辺の主要な事業として、「駅周辺の基盤整備」や「都市計画道路 西端線（以下、「(都) 西端線」という。）の整備」を位置づけ、駅を中心とした便利で快適に暮らせる市街地形成を目指しています。しかし、これらの具体的な整備方針が定まっておらず、地区のまちづくりを進める上で大きな課題となっています。

このような現状を踏まえ、本構想では、将来のまちづくりの方向性や基盤整備の方針を明確にし、まちづくりの推進を図ることを目的とします。

2) 基本構想の区域

本構想では、広域的に捉える「全体構想区域」と、特に駅周辺で基盤整備を必要とする「重点構想区域」を設定します。

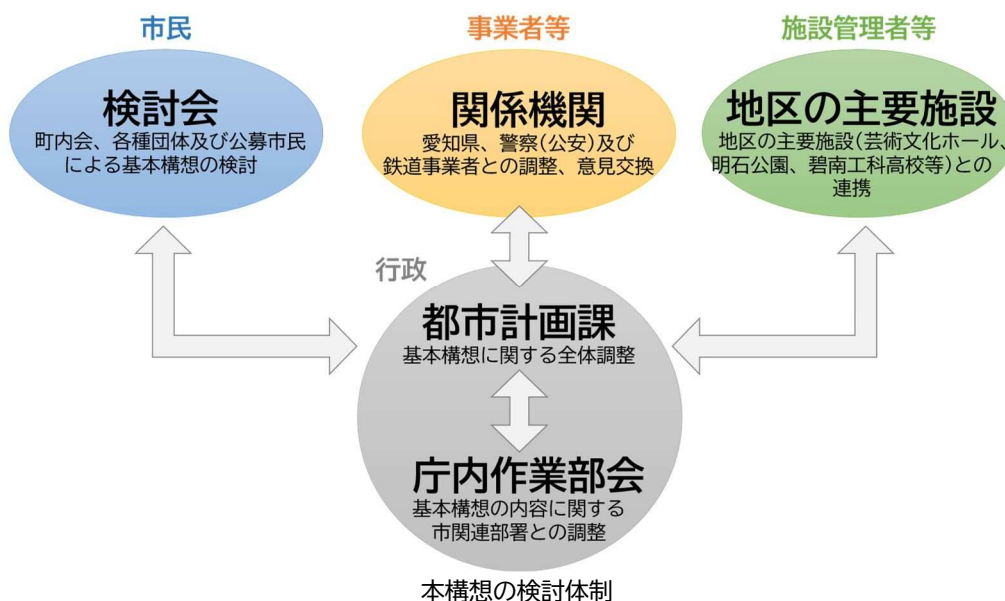


基本構想の区域

3) 検討体制

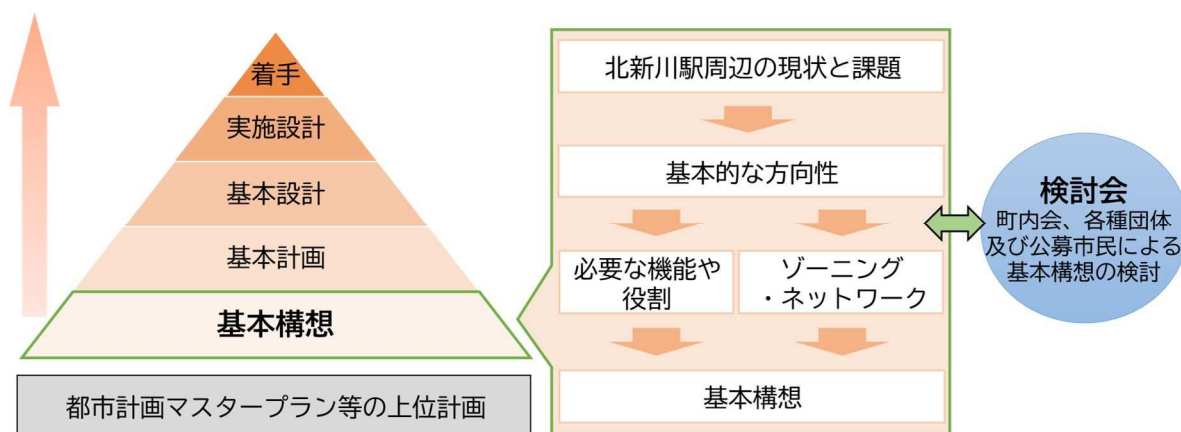
本構想の策定にあたり、行政と市民が協働してまちづくりを推進していくため、町内会や各種団体に加え公募市民の方々による基本構想の検討会を組織し、地区の現状や課題を踏まえたまちづくりの方向性を検討しました。さらに、検討会の状況を「かわら版」として地区内で回覧し、地域住民のまちづくりへの関心を高めるとともに、まちづくりに関する市民アンケート（以下、「市民アンケート」という。（詳細は資料編を参照））を実施し、地域住民や碧南工科高校等の学生の意見も参考にしました。

また、本地区の主要施設である芸術文化ホールや明石公園等との連携、愛知県、警察（公安）及び鉄道事業者等の関係機関との調整、意見交換を継続的に行っています。



(2) 基本構想の位置づけ

本構想は、都市計画マスタープランを上位計画とし、他の上位計画で位置づけられている目指すべき方向性や、関連する計画・事業との整合を図りながら、本地区のまちづくりの推進に向けた方針等を定めるものです。



基本構想の位置づけ

(3) 上位計画・関連計画

本市の上位計画や関連計画において掲げている、本地区に関するまちづくりの方針等を整理します。

1) 碧南市都市計画マスタープラン 2019～2030(令和6年12月中間見直し版)(令和元年10月)

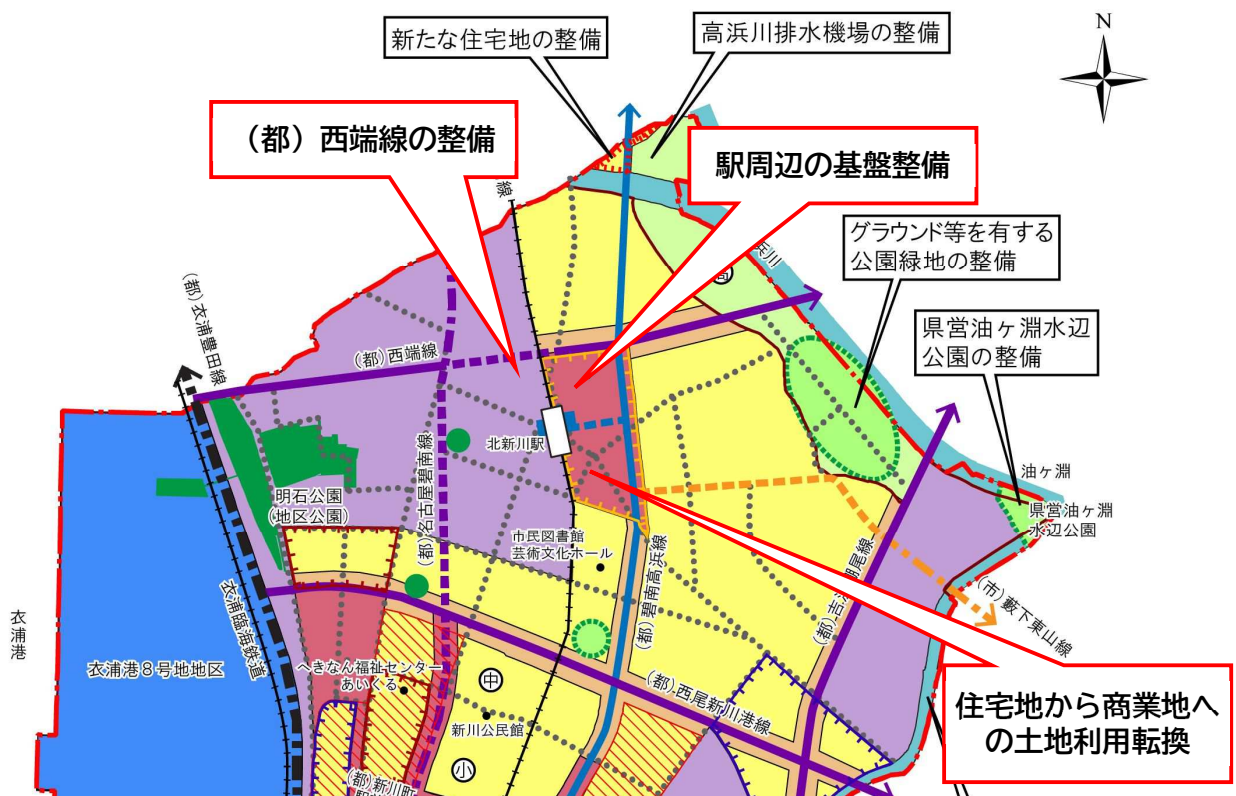
① まちづくりの基本方針

北新川駅周辺は、碧南駅、新川町駅に並び、市のサブ拠点（サブ核）として位置づけられています。このエリアは、都市機能、商業機能及び住居機能を備えた生活利便性の高い都市形成が求められており、土地利用の方針として、「(都) 西端線」やこれを見据えた「駅周辺整備の基盤整備」を行い、「新たな商業地としての土地利用の再編」を検討するとされています。

② (都) 西端線の概要

(都) 西端線は、昭和40年に都市計画決定され、鉄道交差部はアンダーパス道路として計画されました。平成6年度に名鉄三河線の鉄道高架事業の検討が開始されたことを受け、鉄道との交差を含む周辺整備について検討を重ねてきました。その後の社会情勢の変化等を踏まえ、令和元年度には鉄道高架化の位置づけを見直し、(都) 西端線の鉄道交差区間については再びアンダーパス道路として整備することに決定しています。

(都) 西端線は、地域の道路ネットワークだけでなく、国道247号や国道23号といった広域幹線道路と接続する役割も期待されています。



新川地域のまちづくり方針図(碧南市都市計画マスタープラン)

出典：碧南市都市計画マスタープラン(令和6年12月)に加筆

2) 碧南市緑の基本計画 2019～2030(令和6年12月中間見直し版)(令和元年10月)

① 緑化重点地区の指定

北新川駅周辺は、自然の緑が少なくオープンスペースも不足していることから、緑の拠点である明石公園にかけて緑化重点地区に指定されており、地区の緑化をはじめ、公園や緑のオープンスペースの整備を推進し、緑化のネットワークを図ることが必要とされています。

② 緑のまちづくり方針

「駅を中心に水と緑で賑わいを創造する緑のまちづくり」

- ・ 地域を代表する緑の拠点となる近隣公園の整備を推進します。
- ・ 密集市街地において緑のオープンスペースの確保を図ります。
- ・ 各種制度を活用して、地域住民との協働による市街地の緑化を推進します。



北新川駅周辺緑化重点地区(碧南市緑の基本計画)

出典: 碧南市緑の基本計画(令和6年12月)

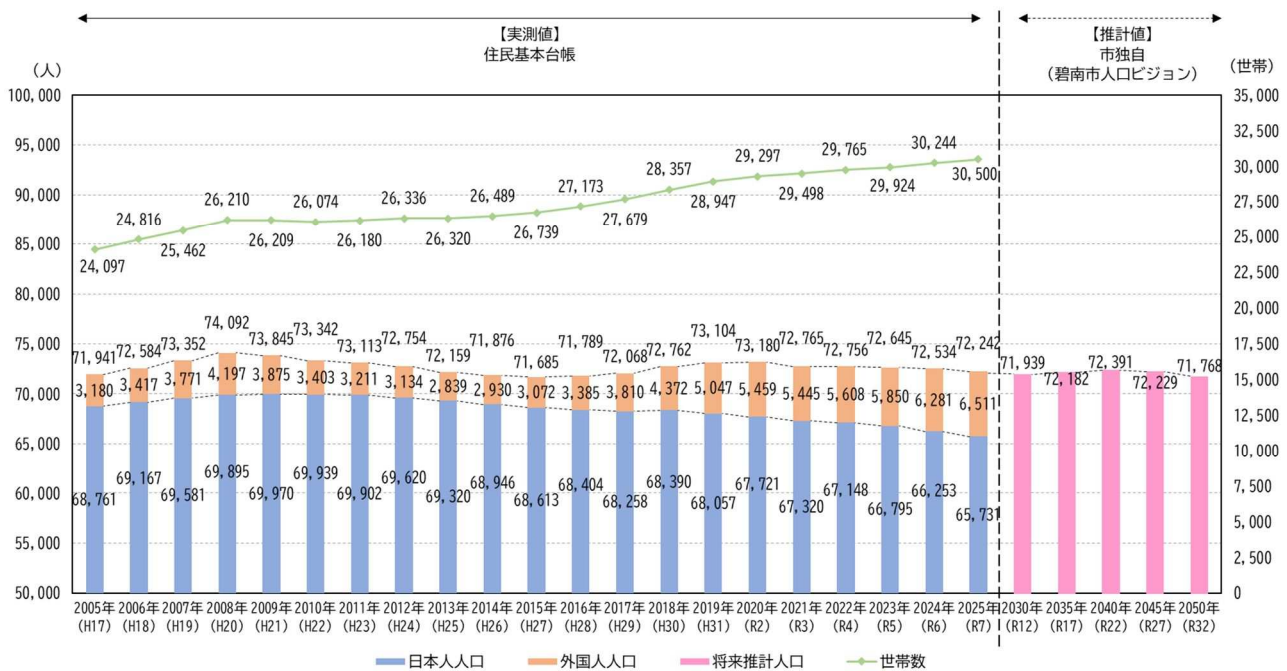
2. 地区の現状と課題



(1) 本地区の現状

1) 人口・世帯の動向

碧南市の総人口は現在約7万2千人で横ばいに推移しており、世帯数は年々増加しています。碧南市人口ビジョンにおける人口の将来目標では、現状の7万人を維持することを目標としています。今後も全国的な少子高齢化や人口減少といった社会情勢に対応するため、碧南市においても持続可能な都市づくりが重要です。



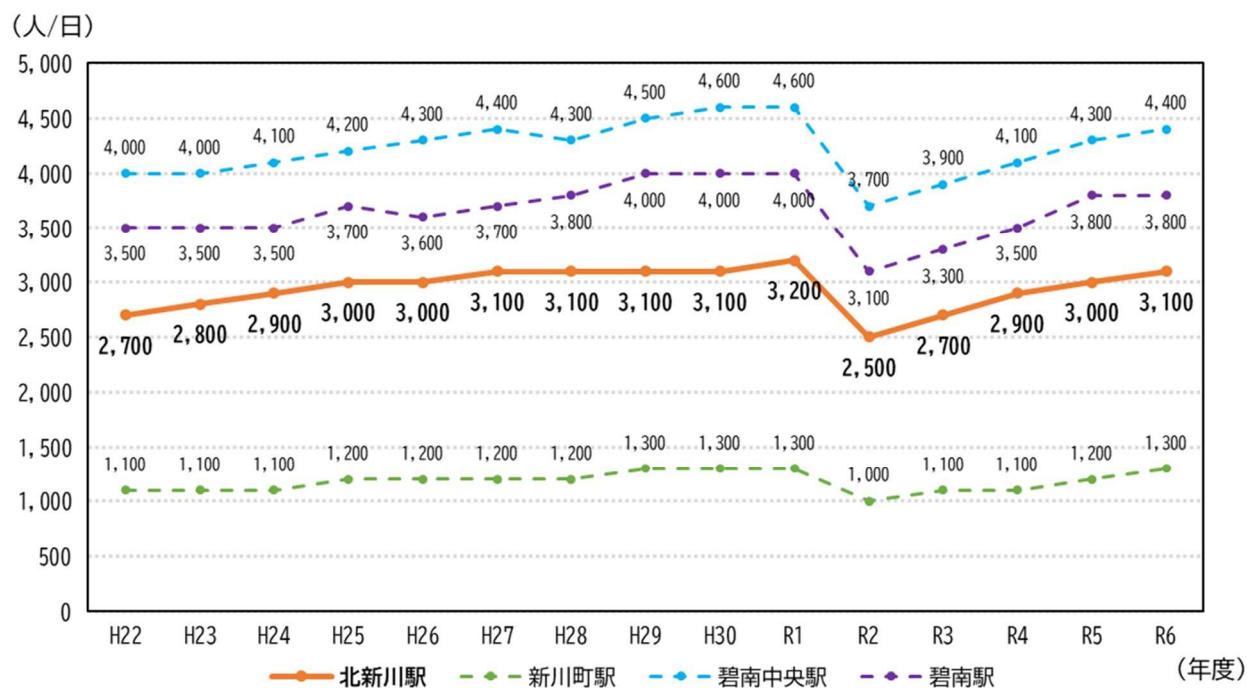
碧南市の人口・世帯の推移

出典：【実測値】住民基本台帳（各年3月末現在）、【推計値】市独自（碧南市人口ビジョン）

2) 公共交通

① 鉄道

- ・北新川駅の1日あたりの平均乗降客数は約3,100人となっています。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で大きく減少しましたが、令和6年度では市内4駅全てでピークである令和元年度に近い数値まで回復傾向にあります。
- ・北新川駅は碧南工科高校の最寄り駅であり、駅利用者のうち7割以上が定期利用です。安定した駅利用が見込まれるため、交通結節点としての機能強化が求められています。



鉄道日平均乗降客数

出典：碧南の統計

単位：千人/年

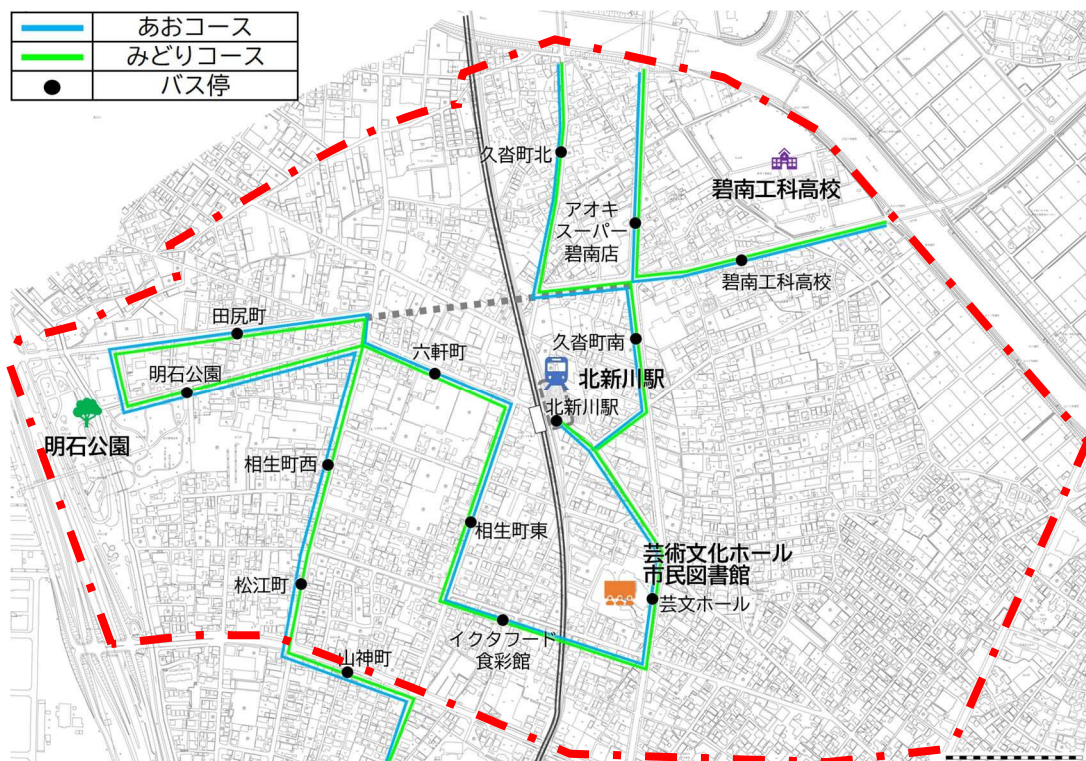
区 分		令和2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
北 新 川	計	908	975	1,041	1,095	1,118
	うち定期券	729	769	792	820	829
	1 日 平 均	2.5	2.7	2.9	3.0	3.1
新 川 町	計	378	390	404	447	457
	うち定期券	297	300	290	321	340
	1 日 平 均	1.0	1.1	1.1	1.2	1.3
碧南中央	計	1,323	1,401	1,468	1,537	1,574
	うち定期券	1,070	1,115	1,121	1,156	1,170
	1 日 平 均	3.7	3.9	4.1	4.3	4.4
碧 南	計	1,135	1,185	1,273	1,356	1,359
	うち定期券	926	945	979	1,032	1,014
	1 日 平 均	3.1	3.3	3.5	3.8	3.8

市内各駅乗降客の状況

出典：碧南の統計

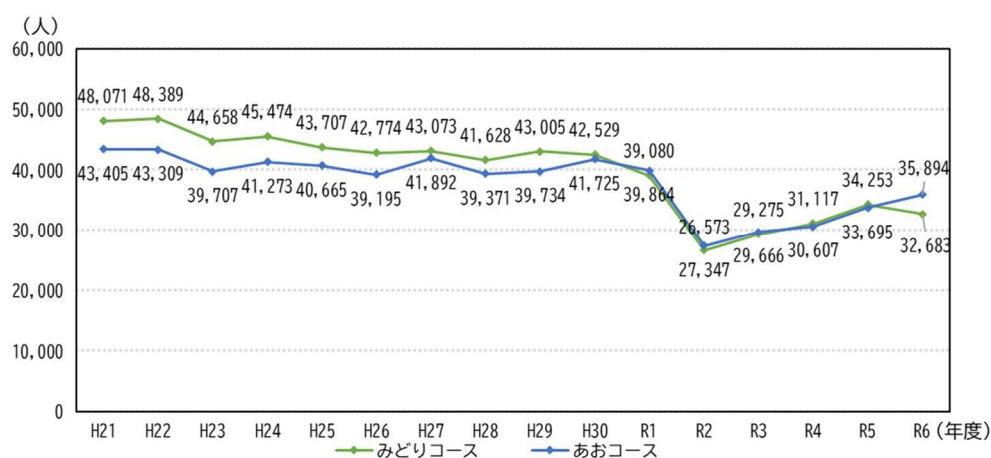
② バス

- ・市内を運行するくるくるバスのうち、みどりコース・あおコースの2路線が北新川駅に乗り入れています。今後は、都市計画マスタープランに位置づけられている（都）西端線や駅周辺の基盤整備により、スムーズな運行が期待できます。



くるくるバス路線

- ・くるくるバスの利用者数としては、令和2年度では新型コロナウイルス感染症の影響で大きく減少しましたが、その後は徐々に回復傾向にあり、今後も地区の主要な交通手段として重要な役割を担っています。



市内全域のバス乗車数

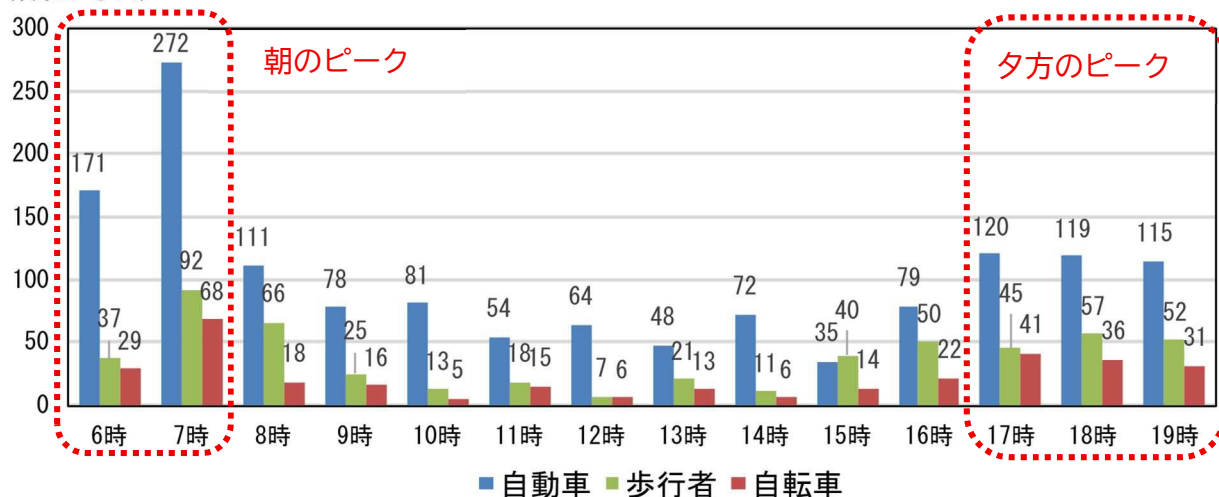
出典：碧南の統計

3) 道路

① 北新川駅前

- ・北新川駅前道路の交通量ピークの時間帯は、朝（6時～8時）と夕方（17時～20時）です。
- ・この時間帯は通学や通勤による通行が多く、特に自動車による送迎が多い状況です。また、市内の他地区からの通行もみられます。

(台および人)



北新川駅前の道路交通量(R 4時点)

- ・北新川駅の改札口のある東側には、駅前ロータリーがないため、路肩に駐停車する送迎車が多く、送迎車やくるくるバスがUターンして引き返す等、歩行者や自転車との交錯による安全上の課題があります。



朝のピーク時の駅前の様子



くるくるバス

② 駅周辺道路

- ・(都)西端線は、鉄道交差箇所が未整備で、鉄道により東西地区が分断されています。そのため交通利便性が低く、周辺の土地利用も進みにくい状況です。[写真①]
- ・駅北側の交差点は踏切と連動した信号交差点になっており、安全性や利便性が低い状況です。また、踏切が閉まると、信号の順番が最初に戻り、通行に時間がかかります。[写真②]
- ・駅から北方向の道路は、通学や通勤での通行がある一方、歩道が狭く、安全な通行空間が確保されていません。また、車道は一方通行の道路となっており、駅へのアクセス性が低い状況となっています。[写真③]
- ・駅へアクセスするための道路には歩道が少なく、朝夕のピーク時は自動車と自転車及び歩行者が交錯しやすい状況です。また、夜間は明かりが少なく、市民アンケートでも防犯面を心配する声が上がっています。[写真④、⑤]



北新川駅周辺の道路

4) 施設立地

北新川駅周辺には、芸術文化ホールや明石公園といった地区独自の魅力ある施設や碧南工科高校等の教育施設、宿泊施設（商業施設）等が立地していますが、それらを活かす取組みが不足しているため、施設間同士が連携して効果を高め合う相乗効果が生まれていない状況です。そのため、施設間の連携を強化し、利用の促進を図ることが期待されます。

① 芸術文化ホール

碧南市芸術文化ホールは、室内楽専用ホール「エメラルドホール」や多目的ホール等を備えた碧南市の芸術文化拠点施設です。コンサートをはじめとした公演等のイベントに利用されています。



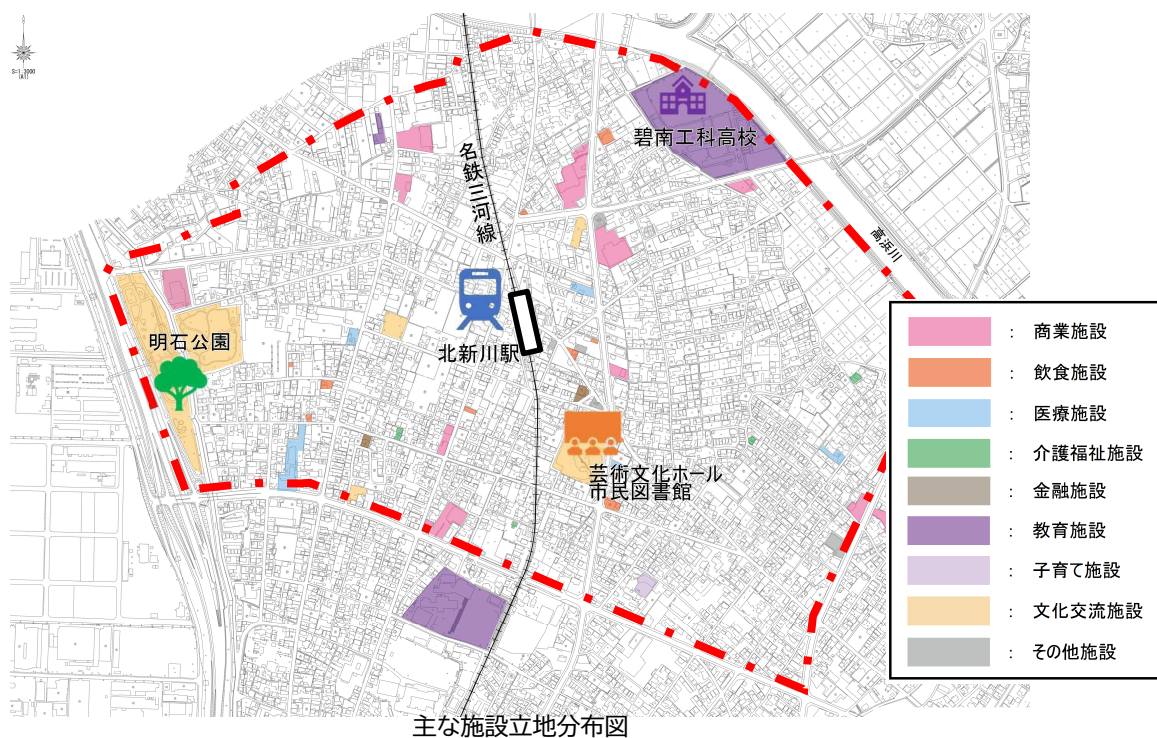
② 明石公園

観覧車等の遊具が多数ある公園です。芝生広場やアスレチック遊具等の施設が充実しており、休日は多くの家族連れで賑わいます。春には約 250 本のソメイヨシノが開花し、3月下旬から4月上旬に桜祭りが開催されています。



③ その他施設

スーパーやコンビニ等、生活に必要な施設が幹線道路沿線を中心に多く立地しています。一方、駅周辺には空き家や空き地、空き店舗がみられ、駅の利用はあるものの、買い物や飲食を目的とした滞在が少なく、駅前の賑わいに欠けています。市民アンケートでも、商店や飲食店の立地を望む意見が多くあります。



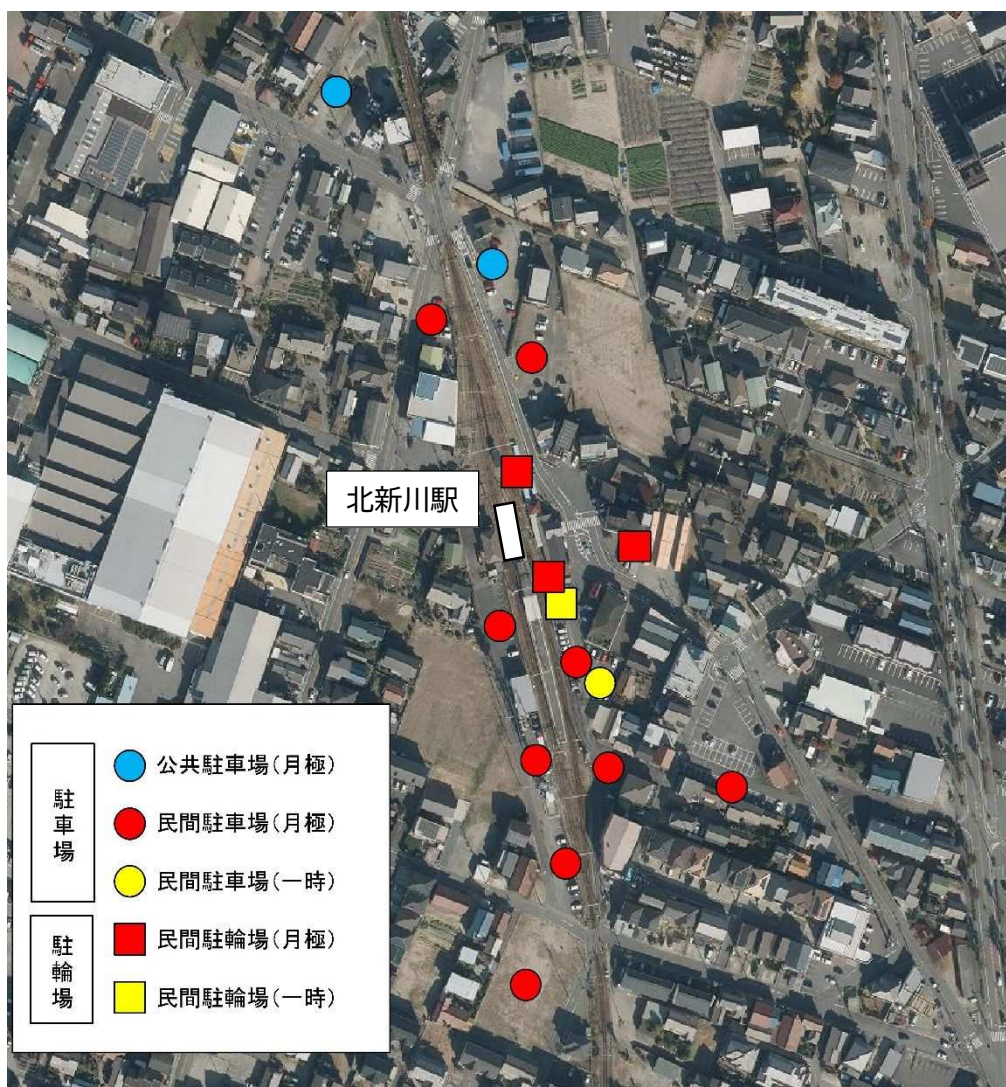
5) 駐車場・駐輪場

① 駐車場

北新川駅周辺の駐車場は、市営（碧南市土地開発公社）によるパークアンドライド月極駐車場が2箇所、その他民間駐車場が各所に点在しています。月極駐車場については、場所によって空きがみられる一方、コインパーキング（時間貸駐車場）は1箇所しかなく、市民アンケートでは駅周辺に立地を望む意見があります。

② 駐輪場

駅周辺の駐輪場は民間の有料駐輪場がありますが、市内の他駅と比べて駐輪可能台数が少なく、市内で唯一無料の駐輪場がない駅となっています。市民アンケートでは、地域住民や学生から無料の駐輪場の設置を望む意見が多くあります。



駅周辺の駐車場・駐輪場の分布図

6) その他

① 地場産業

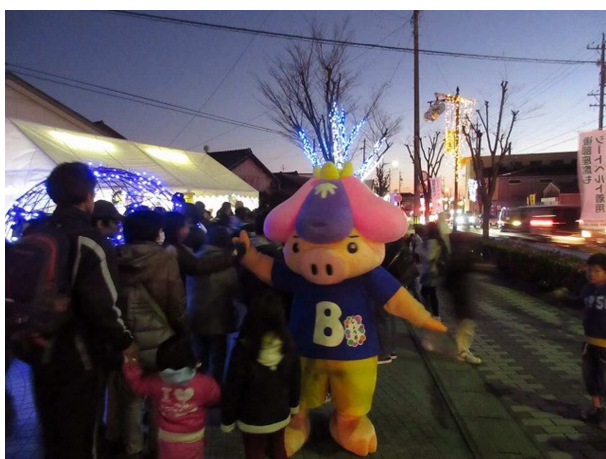
碧南市は白醤油発祥の地であり、新川地域には醸造関係の老舗が各所に立地しています。

加えて、瓦等の窯業、自動車関連を中心とした製造業が盛んな地区です。



② イベント等の地域の取組み

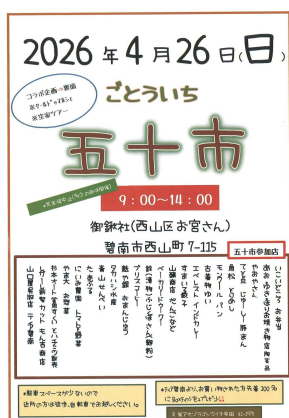
この地区では、きらきらウォークやハロウィンウォーク、五十市、西神ローカルマーケット等のイベントが開催されてきました。また、地区独自の散策マップが作成されている等、市民主体の地域活動が盛んな地区となっています。



きらきらウォークの様子



ハロウィンウォーク



地区のイベント



地区の散策マップ

(2) 本地区の特徴

本地区の特徴について、現状を踏まえて3つのテーマに分類し、既存の価値である「魅力・強み」と、改善点となる「課題・弱み」に着目して整理します。

魅力・強み

課題・弱み

交通環境

- (都)西端線と鉄道の交差箇所がアンダーパス道路で整備されることにより、地域の道路ネットワークだけでなく、国道247号や国道23号といった広域幹線道路とのネットワークが形成され、交通利便性の向上が期待される。
- 北新川駅へは遠方からの自動車利用がある。

- 駅前ロータリーがなく、ピーク時の混雑や、送迎車と歩行者の交錯による危険性が高い。
- 駅周辺には歩道のない道路があり、駅北側には踏切連動式の複雑な信号交差点や一方通行の区間があるため、安全性や利便性が低い。
- (都)西端線が未整備であるため、鉄道によって東西の地区が分断され、周辺の土地利用が進みにくい。
- 線路の西側から駅へのアクセスが悪い。

地区の賑わい

- 碧南市発祥の白醤油の醸造業、製造業等の地場産業が点在している。
- マルシェ等のイベントが実施され、地域活動が盛んである。

- 駅周辺に商業施設が少ない。
- 空き家、空き地、空き店舗が増えている。
- 芸術文化ホールや明石公園等の施設間の連携が少なく、地区全体の賑わいに繋がっていない。

暮らしの環境

- 高校の最寄り駅でもあり、学生を中心として定期券による駅利用が多い。
- 芸術文化ホールや明石公園といった地区独自の魅力ある施設、高校や市民図書館といった教育・学習施設、並びに宿泊施設等の人が集まる施設がある。

- 身近な公園や緑地が少ない。
- 駅周辺に歩道が少なく、地区の回遊性が低い。
- 駅前の夜間は街路灯が少なく暗い場所があり、交通安全や防犯面で不安の声がある。
- 駅前の駐輪場が不足している。

(3) 本地区の課題図



3. 基本方針



(1) 基本方針

本地区では、駅を中心とする交通の拠点機能を強化し、安全で快適な交通環境を整備することが、早急に取組むべき課題となっています。また、芸術文化ホールや明石公園等の地区独自の魅力ある施設が立地している強みを活かし、交流と賑わいの創出、魅力の発信による地域の活性化を図り、暮らしやすい住環境を形成することが求められています。

本構想では、「交通」「賑わい」「暮らし」の3つを基本方針とし、それぞれの取組みが連動することにより相乗効果を発揮し、事業効果が最大化することを目指して取組方針を定めます。

方針1 交通

駅を中心とした公共交通を活かした交通利便性の高いまちづくり

取組方針 1-1 道路ネットワークの構築

- ・(都)西端線の整備により広域幹線道路とのネットワークを形成し、交通機能の強化を図る
- ・駅周辺の道路ネットワークを整備し、駅へのアクセス性及び回遊性の向上を図る

取組方針 1-2 交通結節点としての機能の強化

- ・駅前広場の整備により、交通結節点としての機能を強化し、駅利用者の利便性・安全性の向上を図る

取組方針 1-3 安全で快適な道路環境の整備

- ・駅へアクセスするための主要な道路の歩道や街路灯等の設置により、歩行者の安全性の向上及び交通の円滑化を図る

方針2 賑わい

交通・交流拠点となる駅を中心に地域資源を活かした賑わいのあるまちづくり

取組方針 2-1 駅周辺の賑わいの創出

- ・駅東側地区の土地利用を住居系から商業系へ用途変更し、商業施設の立地を促進する

取組方針 2-2 駅周辺の地域交流の促進

- ・地域行事やイベントに活用できる駅前空間を整備し、駅周辺の賑わいを創出する

取組方針 2-3 既存施設との連携と地域資源の活用

- ・地場産業等の地域資源を活用して、地域活性化を図る

方針3 暮らし

芸術文化ホールや明石公園、学校等の既存施設と連携した

暮らしに寄り添うまちづくり

取組方針 3-1 地域や駅利用者に親しまれる憩いの空間整備

- ・駅前広場を活用した地域住民の憩いの空間を整備し、地域の交流拠点としての機能を持たせる

取組方針 3-2 緑の潤いある住環境の向上

- ・身近な広場や緑地、公園等の緑の空間を整備し、地域住民が心地良く暮らせる環境を創出する

取組方針 3-3 地区の回遊性の向上

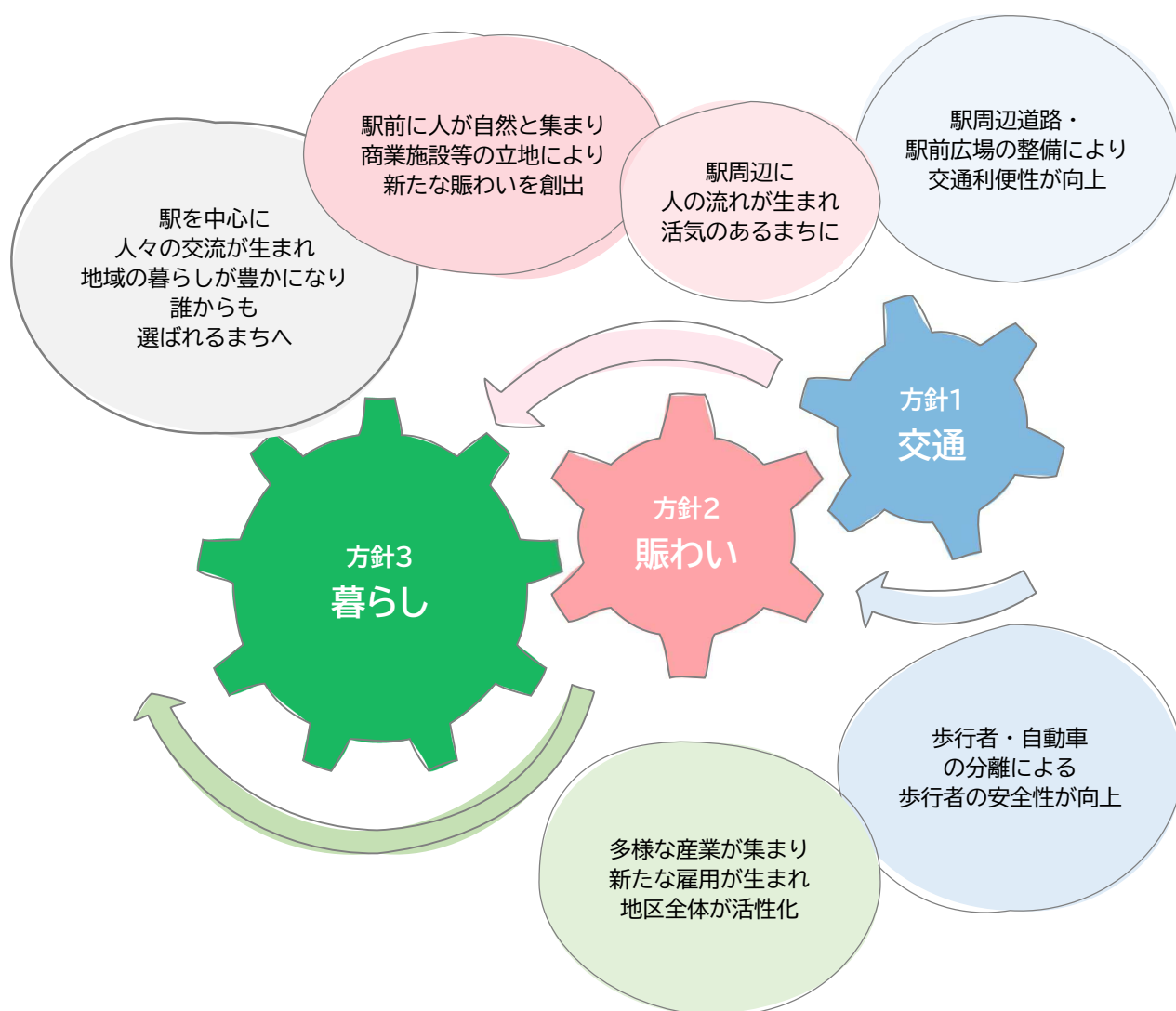
- ・散策マップや案内サイン等により、芸術文化ホールや明石公園等の周辺施設の利用を促進する

地区の現状と課題、3つの基本方針を踏まえ、本地区のまちづくりのコンセプトを以下のとおりとします。

やろまい、北新(きたしん)！ 選ばれるまちを目指して

このコンセプトには、地元の言葉である『やろまい（これからやろうよ）』に、行政と市民が一体となってまちづくりを進めていく思いが込められています。「北新(きたしん)」は、もともと北新川駅の愛称であり、『北』には「碧南市の北の玄関口」、『新』には「新しいことを生み出せる地区」という意味も込めています。

今後の人口減少や少子高齢化といった社会情勢に対応するため、「交通」「賑わい」「暮らし」の3つの基本方針の実現を図り、地区内外の人々から選ばれる持続可能なまちづくりを目指します。



(2) 土地利用方針（ゾーニング）

本地区を、現状の土地利用や基本方針を基に4つのゾーンに区分し、地区の特性を活かした土地利用方針をそれぞれ定めます。

賑わい・まちなか居住ゾーン

賑わいの創出と都市機能やまちなか居住を誘導するゾーン

新たな交通環境や交通結節点の整備を最大限に活用し、既存施設の活用を基本とした多様な都市機能の充実によって賑わいを創出し、その賑わいによって「まちなか居住」を誘導する好循環の形成を目指す空間として位置づけます。

居住ゾーン

良好な居住環境を推進するゾーン

駅に近い利便性を活かし、新たに住む人の移住・定住を促進するとともに、安全・安心な地域づくりや、緑による潤いのある住環境の形成を進め、長く住み続けられる住宅地の形成を目指す空間として位置づけます。

住工共生ゾーン

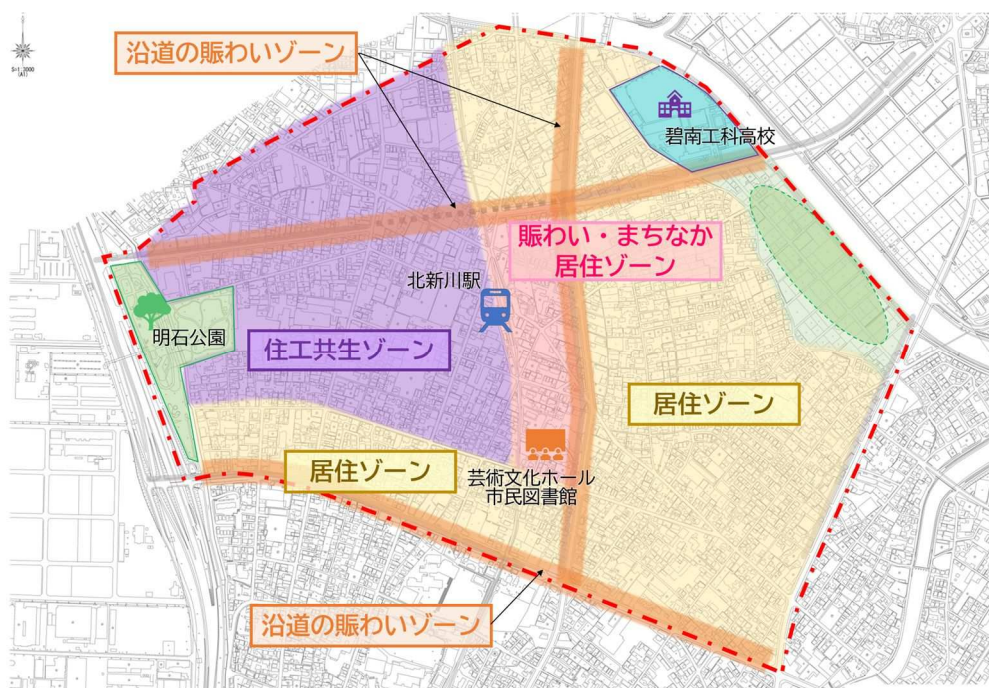
地場産業と居住環境の共生を図るゾーン

製造業等の地場産業と住宅が混在している地区であることから、産業活動と良好な居住環境との共生を図る空間として位置づけます。

沿道の賑わいゾーン

地域の幹線道路の沿道において賑わいを誘導するゾーン

通過交通を見込んだ沿道サービス施設の立地を促進し、暮らしの利便性の向上を図るための施設立地を誘導する空間として位置づけます。



土地利用方針（ゾーニング）図

4. 実施方針・整備目標



(1) 実施方針・整備目標

基本方針に基づく整備及び取組みの実施方針（取組施策）と整備の進捗の目安となる整備目標を定めます。本地区のまちづくりを進めるにあたっては、（都）西端線の整備や駅周辺の基盤整備に伴う道路交通の変化を念頭に置く必要があります。整備目標は短期・中期・長期の3区分とし、短期は事業着手から10年程度、中期は20年程度、長期は事業の進捗に応じて設定します。

短・中期目標では、主に「重点構想区域」における交通課題の解消を目的とした事業により、駅周辺の安全・安心を確保します。また、交通結節点としての機能を強化し、利便性・快適性を高めることで地域住民が暮らしやすさを実感できる拠点づくりを目指します。中・長期目標では、短期目標の成果を踏まえ、賑わいのある空間を創出し、地域住民や就業者等が憩い・交流できる場を形成するとともに、地域の魅力や情報を積極的に発信します。

これらを踏まえ、基本方針や取組方針に基づく具体的施策及び、目標に応じた整備目標を以下のとおり整理し、事業の効率性等を踏まえた優先度に応じて段階的に進めます。

基本方針	取組方針	No	取組施策	構想区域		事業主体		整備目標		
				重点	全体	行政	民間	短期	中期	長期
方針1 交通	1-1 道路ネットワークの構築	①	（都）西端線の整備（アンダーパス化）	○		○				
		②	駅周辺の道路ネットワーク整備（駅へのアクセス向上）	○		○				
	1-2 交通結節点としての機能の強化	③	駅前広場（ロータリー）の整備	○		○				
		④	駐車場の適切な配置	○		○	○			
		⑤	無料駐輪場の整備	○		○				
		⑥	くるくるバスの路線経路の見直し		○	○				
	1-3 安全で快適な道路環境の整備	⑦	駅と周辺幹線道路を繋ぐ道路の歩道設置	○		○				
		⑧	狭あい道路の整備促進事業（後退用地の買取制度）の活用		○	○	○			
		⑨	駅前広場や道路等のバリアフリー化	○		○				
方針2 賑わい	2-1 駅周辺の賑わいの創出	⑩	土地利用の用途変更（住居系から商業系）	○		○				
		⑪	地域資源を活かした駅前空間の整備	○		○				
		⑫	空き家、空き地、空き店舗の活用	○		○	○			
		⑬	商業施設立地の促進	○		○	○			
	2-2 駅周辺の地域交流の促進	⑭	助成制度の活用	○	○	○	○			
		⑮	民間活力の導入検討	○		○	○			
		⑯	地域行事やイベントの実施	○	○	○	○			
	2-3 既存施設との連携と地域資源の活用	⑰	多様性への対応（ユニバーサルデザインの推進）		○	○	○			
		⑱	芸術文化ホール、明石公園等の周辺施設との連携	○	○	○	○			
方針3 暮らし	3-1 地域や駅利用者に親しまれる憩いの空間整備	⑲	地場産業のPR		○	○	○			
		⑳	ベンチ、トイレ、Wi-Fi等の休憩施設の設置	○		○				
	3-2 緑の潤いある住環境の向上	㉑	街路灯（防犯灯）の設置	○		○				
		㉒	身近な公園・緑地の整備	○	○	○				
	3-3 地区の回遊性の向上	㉓	散策マップ等による商店・施設の案内		○	○	○			
		㉔	案内サイン等の設置	○		○				

取組施策及び整備目標一覧

(2) 基本構想図（目指す区域の姿）

基本方針を実現するため、将来のまちづくりの指針となる基本構想図を作成しました。

1-3 安全で快適な道路環境の整備（地区全体）

- ⑦ 駅と周辺幹線道路を繋ぐ道路の歩道設置
- ⑧ 狭あい道路の整備促進事業(後退用地の買取制度)の活用
- ⑨ 駅前広場や道路等のバリアフリー化

1-1 道路ネットワークの構築

- ①(都)西端線の整備
(アンダーパス化)
- ②駅周辺の道路ネットワーク整備
(駅へのアクセス向上)
- 

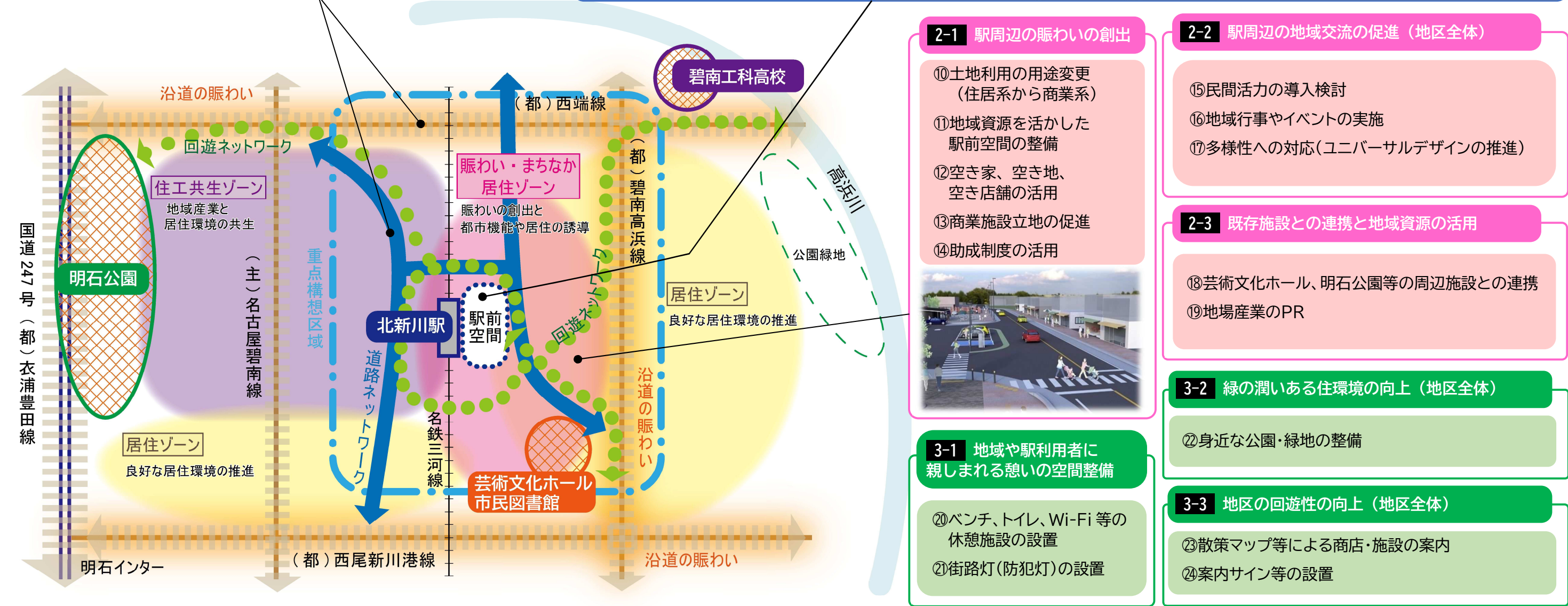
1-2 交通結節点としての機能の強化

- ③駅前広場(ロータリー)の整備
④駐車場の適切な配置
⑤無料駐輪場の整備
⑥くるくるバスの路線経路の見直し

踏切道路改良

駅前広場

歩行者滞留空間



2-1 駅周辺の賑わいの創出

- ⑩土地利用の用途変更
（住居系から商業系）
- ⑪地域資源を活かした
駅前空間の整備
- ⑫空き家、空き地、
空き店舗の活用
- ⑬商業施設立地の促進
- ⑭助成制度の活用



3-1 地域や駅利用者に親しまれる憩いの空間整備

- ⑳ベンチ、トイレ、Wi-Fi等の休憩施設の設置
- ㉑街路灯(防犯灯)の設置

2-2 駅周辺の地域交流の促進（地区全体）

- ⑮民間活力の導入検討
- ⑯地域行事やイベントの実施
- ⑰多様性への対応(ユニバーサルデザインの推進)

2-3 既存施設との連携と地域資源の活用

- ⑮芸術文化ホール、明石公園等の周辺施設との連携
⑯地場産業のPR

3-2 緑の潤いある住環境の向上（地区全体）

- ## ②身近な公園・緑地の整備

3-3 地区の回遊性の向上（地区全体）

- ②散策マップ等による商店・施設の案内
④案内サイン等の設置

※基本構想図は現時点における整備イメージのため、今後の関係機関等との調整により、計画が変更となる可能性があります。

(3) 取組施策

取組方針 1-1 道路ネットワークの構築

(都) 西端線の整備により周辺幹線道路との広域ネットワークを形成し、交通機能の強化を図ります。また、北新川駅や駅前広場等への円滑な交通処理を図るため、駅周辺の道路ネットワークを再構築し、駅へのアクセス性及び地区の回遊性の向上を図ります。

<主な施策>

施策① (都)西端線の整備 (アンダーパス化)

施策② 駅周辺の道路ネットワーク整備 (駅へのアクセス向上)



市内のアンダーパス道路

取組方針 1-2 交通結節点としての機能の強化

駅前広場を整備することにより、交通結節点としての機能の強化を図ります。また、駅周辺の駐車場、駐輪場を適切に配置することで、パークアンドライド及びサイクルアンドライドを推進し、鉄道やくるくるバスといった公共交通の乗り換えにおける利便性の向上を図ります。

<主な施策>

施策③ 駅前広場 (ロータリー) の整備

施策④ 駐車場の適切な配置

施策⑤ 無料駐輪場の整備

施策⑥ くるくるバスの路線経路の見直し



令和6年3月に完成した碧南駅西駅前広場

取組方針 1-3 安全で快適な道路環境の整備

駅へアクセスする主要な道路には歩道や街路灯等を設置し、歩行者の安全性の向上と交通の円滑化を図ります。その他の道路においても危険な箇所の改善を図ることで、誰もが安全・安心に歩行できる空間の確保に取り組めます。

<主な施策>

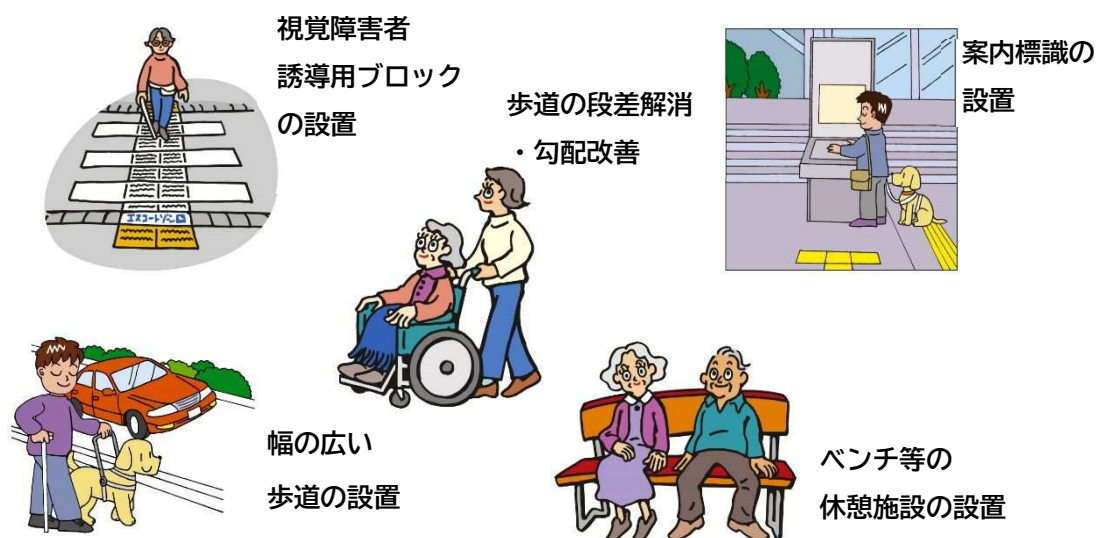
施策⑦ 駅と周辺幹線道路を繋ぐ道路の歩道設置

施策⑧ 狭あい道路の整備促進事業（後退用地の買取制度）の活用

施策⑨ 駅前広場や道路等のバリアフリー化



駅前道路の整備イメージ



取組方針 2-1 駅周辺の賑わいの創出

駅東側地区の用途地域を住居系から商業系へ変更し、商業施設の立地を促進します。また、駅周辺の整備により民間施設の立地を促進するとともに、空き家や空き地、空き店舗の活用を進め、賑わいの創出を図ります。

<主な施策>

施策⑩ 土地利用の用途変更（住居系から商業系）

施策⑪ 地域資源を活かした駅前空間の整備

施策⑫ 空き家、空き地、空き店舗の活用

施策⑬ 商業施設立地の促進

施策⑭ 助成制度の活用

（想定される助成制度：市民公益活動活性化補助金、地域内連携まちおこし事業補助金、創業チャレンジ補助金 等）

取組方針 2-2 駅周辺の地域交流の促進

地域行事やイベントに活用できる駅前空間を整備し、地域の賑わいを創出します。また、北新川駅周辺は地域活動が盛んなことから、多様な才能やノウハウを持つ地域住民が参画するイベントを開催し、交流機会を拡大します。併せて、誰もが利用しやすいユニバーサルデザイン※に配慮したまちづくりに取り組みます。

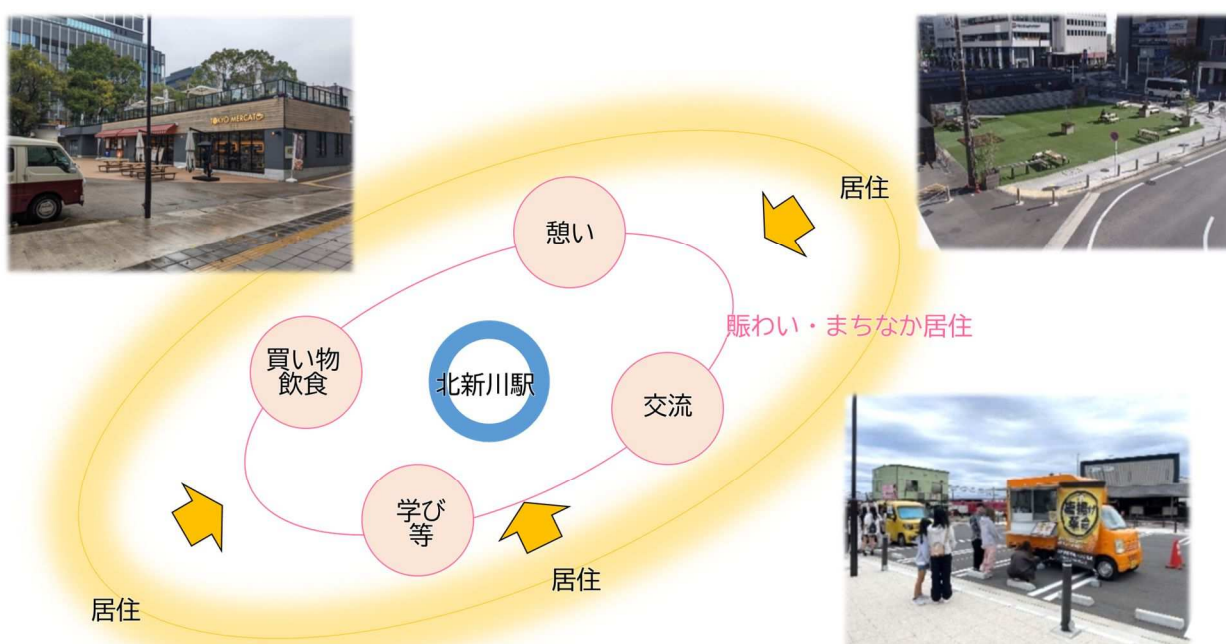
<主な施策>

施策⑮ 民間活力の導入検討

施策⑯ 地域行事やイベントの実施

施策⑰ 多様性への対応（ユニバーサルデザインの推進）

※ユニバーサルデザイン：ユニバーサルデザインは、年齢、体格、言語、障害の有無等の違いに配慮し、はじめから多くの人が安全に、簡単に使える環境やしきみをつくる考え方です。



取組方針 2-3 既存施設との連携と地域資源の活用

芸術文化ホール及び明石公園等の周辺施設や地場産業等の地域資源を活用し、魅力を発信します。併せて、地区内の回遊と滞在を促進し、教育・文化機関等と連携して学びや交流の機会を広げ、賑わいを創出します。

<主な施策>

施策⑱ 芸術文化ホール、明石公園等の周辺施設との連携

施策⑲ 地場産業のPR

取組方針 3-1 地域や駅利用者に親しまれる憩いの空間整備

駅前空間を活用し、ベンチや広場等の日常的に利用できる設備や安全・快適に過ごせる空間として、地域住民の憩いの空間を整備して、地域の交流拠点としての機能を持たせます。

<主な施策>

施策⑳ ベンチ、トイレ、Wi-Fi等の休憩施設の設置

施策㉑ 街路灯（防犯灯）の設置



駅前の施設イメージ

取組方針 3-2 緑の潤いある住環境の向上

身近な公園や緑地等の緑の空間を整備し、子どもから大人まで誰もが集い、遊び、憩える場として、地域住民が豊かに暮らせる環境を創出します。

<主な施策>

施策㉒ 身近な公園・緑地の整備



駅周辺の緑化イメージ

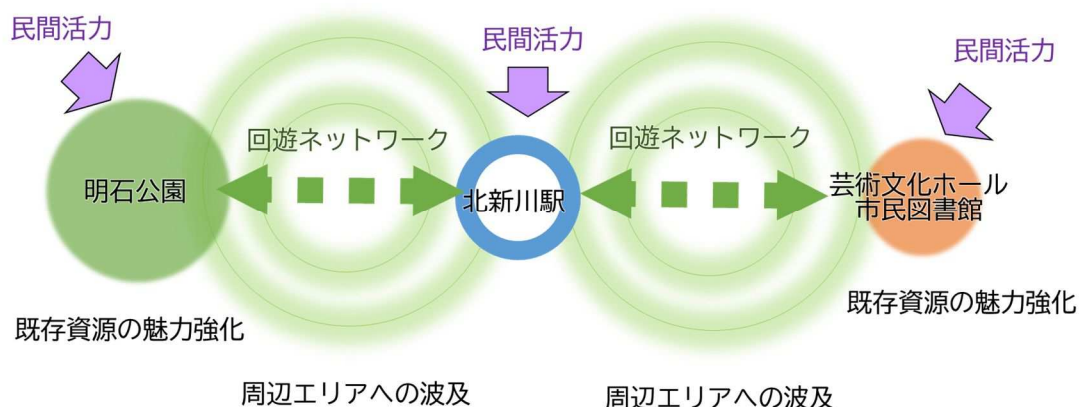
取組方針 3-3 地区の回遊性の向上

歩道・車道の分離によって安全性を高め、楽しく往来できる回遊空間の整備を進めます。併せて、散策マップの作成や案内サイン等を設置することにより、芸術文化ホールや明石公園等の周辺施設の利用促進を図ります。

<主な施策>

施策⑳ 散策マップ等による商店・施設の案内

施策㉑ 案内サイン等の設置



回遊ネットワークのイメージ

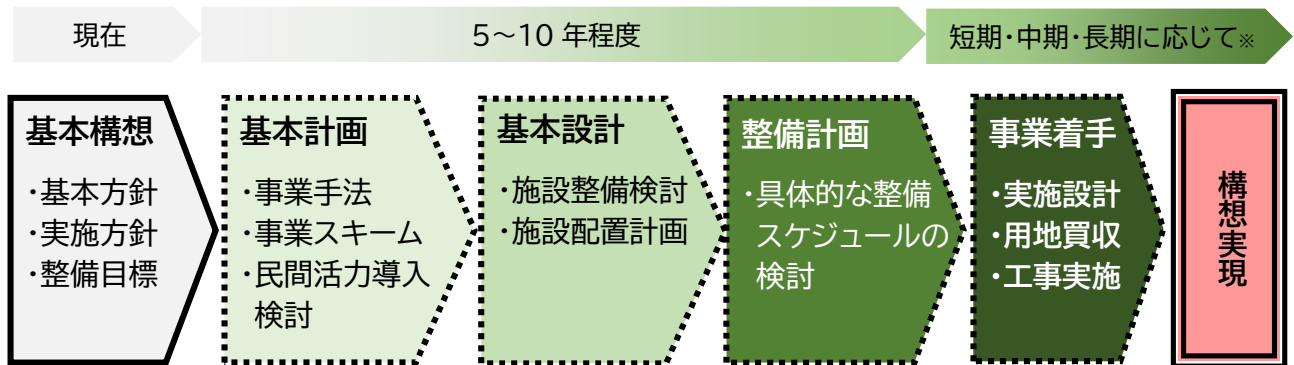


地区の散策マップ

5. 今後の予定



今後は、下図のとおり事業実施に向けて継続的に検討を進めます。事業実施にあたっては、短期・中期・長期の整備目標に基づく具体的な整備スケジュールを検討し、早期の事業着手を目指します。



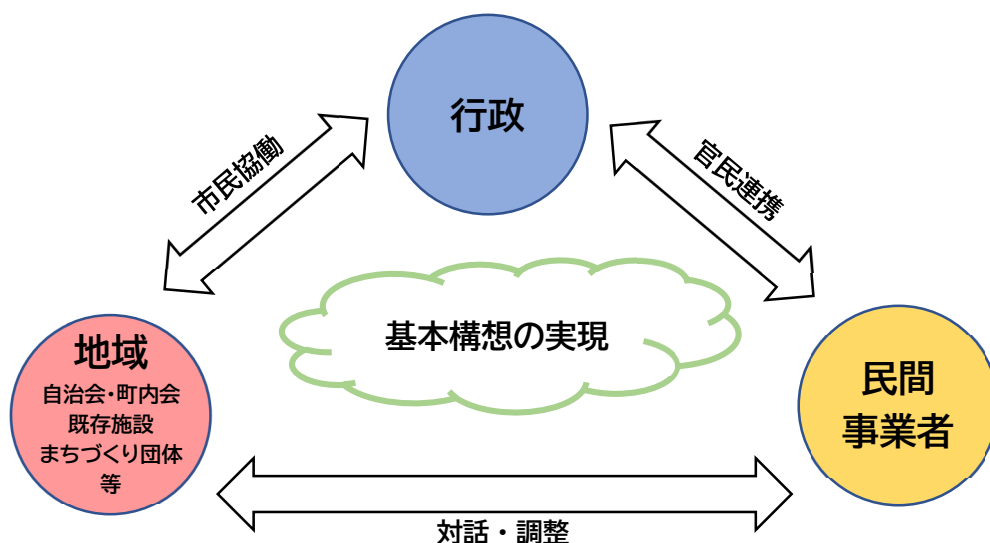
※整備目標の短期は事業着手から 10 年程度、中期は 20 年程度、長期は事業進捗に応じて検討する。

6. 基本構想の実現に向けて



本構想の策定にあたり、町内会や各種団体に加え、公募市民による検討会を組織し、多角的な視点からまちづくりの方向性を検討してきました。また、検討会の活動状況を「かわら版」として地区内で回覧し、地域住民のまちづくりへの関心を高めるとともに、市民アンケートによる「地域の声」を参考にして検討を進めてきました。

今後も本構想の実現に向け、地域住民をはじめとした市民の視点を大切にしながら、市民協働と官民連携によるまちづくりを目指します。



（１）基本構想検討会

本構想の策定に向けて、以下のとおり、全４回の検討会を実施しました。各回の概要は、かわら版として地区に回覧し、市のホームページでも公開しています。

令和７年８月２８日 第１回：北新川駅周辺地区の現在

- ・北新川駅周辺地区の現状と課題の検討
- ・今後のまちづくりの方向性、方針の検討

令和７年１０月３日 第２回：課題や方針を踏まえた対策の検討

- ・まちづくりの基本方針の決定
- ・土地利用方針の検討
- ・基本的な方針や土地利用を踏まえた対策の検討

令和７年１２月４日 第３回：目標実現に向けた具体的な施策

- ・地域の取組みや主要施設との連携
- ・道路や駅前広場等の施設整備の検討
- ・重点構想区域の段階的な整備計画の検討

令和８年２月１２日 第４回：基本構想のとりまとめ

- ・基本構想（案）のとりまとめ
- ・まちづくりコンセプトの考案



基本構想検討会名簿

氏 名	所 属 ・ 役 職
永 谷 洋 二	新川地区連絡委員 正幹事
奥 谷 建 児	新川地区連絡委員 副幹事
岡 島 晋 一	碧南商工会議所 食品・醸造部会 部会長
石 川 史 朗	(一社) 碧南青年会議所 理事長
横 山 茂	碧南市商店街連盟 会長
小 笠 原 千 央	きらきらウォーク実行委員会 実行委員長
原 田 雅 子	碧南市身体障害者福祉協会 副会長
中 村 志 保	碧南市女性団体連絡協議会 副会長
西 山 一 幸	西山寿会 会長
柴 田 美 香	公募市民
佐 原 淳 子	公募市民
野 尻 亮 太	公募市民
事 務 局	碧南市 建設部 都市計画課

※第1回検討会開催時の役職を記載。

(2) 市民アンケート

北新川駅周辺のまちづくりに関する市民アンケートを実施しました。

令和7年度 北新川駅周辺地区のまちづくり基本構想に関するアンケート

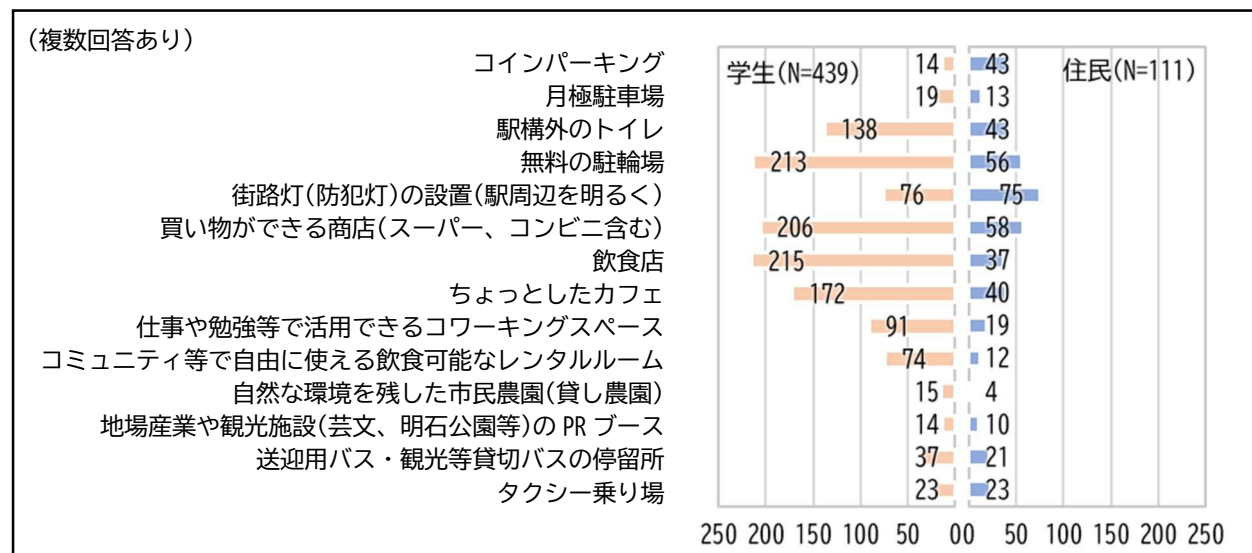
実施期間：令和7年11月21日～令和8年1月15日

実施方法：北新川駅周辺住民への回覧、碧南工科高校への依頼、市ホームページ

回答数：550人

➤ 北新川駅周辺、または駅前広場に必要と思う機能・施設について

- ・学生は飲食店を求める意見が多く、一方で地域住民では街路灯等のような防犯機能を求める声が多くみられます。
- ・学生と地域住民に共通して、「無料の駐輪場」、「買い物が出来る商店」の意見が多くあります。

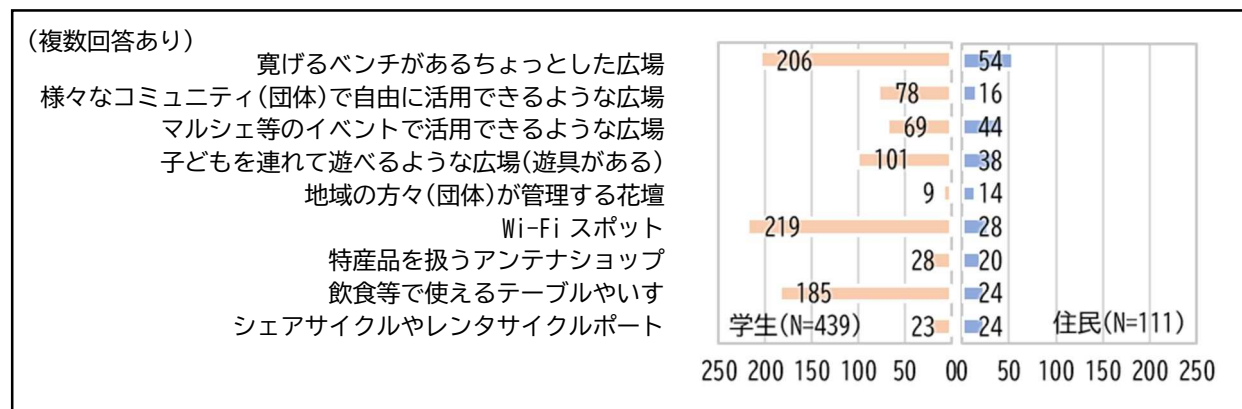


【その他の回答(主な意見)】

- 10代：放課後の居場所となる娯楽施設、利便性を高める商業施設、駅設備の改善 等
- 20～50代：送迎時の混雑解消、歩行環境や夜間の安全対策、利便性の高い施設の誘致 等
- 60代～：駅前ロータリーの整備、安全性の高い多目的施設 等

➤ 駅前広場にどのような機能があると日常的に利用したいか

- ・学生と地域住民に共通して、駅前広場には「くつろげるベンチがあるちょっとした広場」を求める意見が多く、学生は Wi-Fi 設備といったスマホやタブレット等を快適に利用できる環境、地域住民はイベント等にも活用できる賑わいのある広場を求める意見が多くなっています。

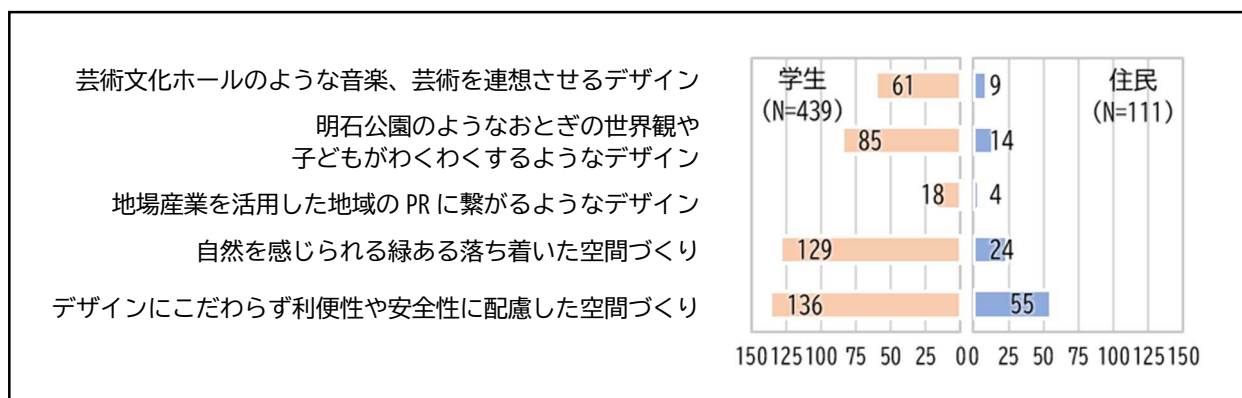


【その他の回答（主な意見）】

- 10代 : ゲームセンター、カラオケ、コンビニ、自習施設 等
- 20～50代 : 子育て世代向けの交流施設、自転車道、駅西からのアクセス、防犯機能 等
- 60代～ : 飲食店、時計台、防災無線 等

➤ 駅前広場のコンセプト、デザインについて

- ・学生と地域住民に共通して、駅前広場には利便性や安全性に配慮した空間づくりを求める意見が多くあり、次いで、自然や緑が感じられる空間を求める意見が多くなっています。



【その他の回答（主な意見）】

- 10代 : 噴水等のオブジェクト、話題性のあるデザイン 等
- 20～50代 : 子ども向けのデザイン、憩い空間、維持管理コストが低いデザイン 等
- 60代～ : 災害対応可能な広場、財政面を考慮したデザイン 等

➤ 自由意見（主な意見）

学生と地域住民の主な自由意見は以下のとおりです。

◆10代：学生が過ごせる場や利便施設の充実に関する意見

- ・ 学生が遊べる場所がほしい。
- ・ 無料駐輪場や衛生管理の行き届いたトイレがほしい。
- ・ ご飯を食べたり勉強する場所がほしい。
- ・ 高校生が気持ちよく利用できる雰囲気のある駅にしてほしい。
- ・ 駅前に車を止めさせないでほしい。
- ・ 北新川駅前には道幅が狭く、その空間で歩行者と車が交錯するため危険。

◆20～50代：安心して利用できる駅と多世代が集う空間の整備に関する意見

- ・ 通勤通学時間の混雑が不便で、全ユーザーが安心して使える駅にしてほしい。
- ・ 整備後も含めてコストを抑えたものが多い。
- ・ ちょい飲みやレトロな雰囲気、緑化された空間があってもいい。
- ・ カフェや飲み屋、子育て世代が活用できる場がほしい。
- ・ 防犯カメラや街路灯があるといい。
- ・ 市民活動向けの広場や施設は市民図書館に集約していいと思う。
- ・ 散歩の途中で立ち寄れる空間がほしい。
- ・ 清潔感があるといい。
- ・ 狭い道路が多く、全体的に広くしてほしい。

◆60代～：交流や防災に配慮した駅前広場と交通機能の整備に関する意見

- ・ 様々な市民活動が可能な広場があるといい。
- ・ 今は車に乗れるが、将来的にくるくるバスを使うようになると駅まで時間がかかる。
- ・ 草取りや花壇の維持管理が必要。
- ・ 災害時に使える広場があるといい。
- ・ 広場ではきらきらウォークやコンサート等のイベント、マルシェをやってほしい。
- ・ 人とのつながりが持てる空間。
- ・ 車の一時駐車場やロータリーを優先的に整備してほしい。

北新川駅周辺まちづくり基本構想

発行 : 令和8年6月 愛知県碧南市
編集 : 碧南市 建設部 都市計画課
TEL : 0566-95-9905 (直通)
Mail : tosikeka@city.hekinan.lg.jp

基本構想
概要版は
こちらから
(碧南市 HP)

